

# 強者の戦略

10月に入りましたね。センター試験まであと100日余りとなり、受験生の皆さんは毎日の勉強にいそしんでいることと思います。そして、秋は模試ラッシュ。夏の勉強の成果を存分に出し切って、今後の勉強に弾みをつけてほしいと思います。

さて、第20回となる今回は2013年の東大日本史の第3問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1週間、しっかり問題を考えてみてください。

## 【2013年度 東京大学 文科前期 第3問】

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) 江戸幕府は、1615年の大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼした後、伏見城に諸大名を集めて武家諸法度を読み聞かせた。その第1条は、大名のあるべき姿について、「文武弓馬の道、専ら相<sup>たしな</sup>嗜むべき事」と述べていた。
- (2) ついで幕府は、禁中並公家諸法度を天皇と公家たちに示した。その第1条は、天皇のあるべき姿について、「第一御学問なり」と述べ、皇帝による政治のあり方を説く中国唐代の書物や、平安時代の天皇が後継者に与えた訓戒書に言及している。
- (3) 1651年、新将軍のもとで末期養子の禁が緩和され、1663年には殉死が禁止された。これらの項目は1683年の武家諸法度に条文として加えられた。
- (4) 1683年の武家諸法度では、第1条は「文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事」と改められた。

### 設 問

- A (1)・(2)の時期に、幕府は、支配体制の中で大名と天皇にそれぞれどのような役割を求めたと考えられるか。2行以内で述べなさい。
- B 1683年に幕府が武家諸法度を改めたのは、武士の置かれた社会状況のどのような変化によると考えられるか。3行以内で述べなさい。